

会 議 録

1 会議名

令和3年度第10回中郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）協議（公開）

新たな自主的審議事項について

（2）その他

令和3年度除雪計画書の配布について

3 開催日時

令和3年12月22日（水）午後6時30分から午後7時20分まで

4 開催場所

中郷コミュニティプラザ ホール

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：荒川清尊、岡田龍一、高橋京子、高橋達也、竹内昭彦、竹内靖彦、
村越勝彦、陸川陽一

・事務局：名倉浩中郷区総合事務所長、内藤香織次長（総務・地域振興グループ長
兼務）、総務・地域振興グループ・内田明浩班長、田村結花主事

〔 以下、総務・地域振興グループは総務G、市民生活・福祉グループは
市民G、教育・文化グループは教育G、グループ長はG長と表記 〕

8 発言の内容（要旨）

【内田班長】

・会議の開会を宣言

【竹内（靖）会長】

挨拶

【内田班長】

上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【竹内（靖）会長】

会議録確認：「荒川清尊」委員と「陸川陽一」委員に依頼。

協議事項(1)の「新たな自主的審議事項」について事務局の説明を求める。

【内田班長】

資料No.1に基づいて説明。

【竹内（靖）会長】

先回の主な意見と方向性について、担い手対策を検討することで仮定したという報告をしていただいた。先回の欠席者の意見も出ているので本人より説明をお願いしたい。

【高橋（京）副会長】

少子高齢化や過疎化が避けられず、現状を変える良い手立てがなかなか見つからない。もはや避けられない現実であり、それを受け入れたうえでどのような特色ある住みやすい地域となれるかを考えていくべきである。それは、移住者などに頼ることもできるが、在住している住民の意識を変えて、自らがこの地域の活性化を考え行動していくことが大切だと思う。

【陸川（陽）委員】

新たな自主的審議事項ということで、あらためて向き合うと何を取り上げていいのか少し考え、日ごろ自分が思っていることやよく耳にする事などを挙げてみた。人口減少、担い手不足について考えると、小学校の先進化、通学路や遊び場などの危険箇所の改善、学校外の学びの場の設立等、子ども達が中心となり子ども達が安心して住めるような環境づくりから始めるべきではないかと考えた。

【竹内（靖）会長】

前回欠席者の意見を説明いただいた。先回は、意見と方向性については担い手対策について検討することで仮定していたが、今、お聞きした意見についても広く捉えるところでは担い手対策に繋がってくると考える。ただ、担い手対策となると幅広い課題となるため、これから時間をかけて話し合いをしていく中で、雲を掴むような話となっても困るので、ある程度のビジョンというか最終的にどのようなところを目指すのかを決めておく必要もあると思う。今後の協議の進め方についても、事務局から提

案があったような、まずは、カテゴリーを決めたうえで、そのカテゴリー毎に協議をしていくような形で行ってはどうかと考えている。例えば、農業関係であれば農業を実際に行っている委員により協議し、子育て関係であれば、子育てを離れた人よりも若い委員のほうが実際の近い距離で話ができるものと思う。地域協議会委員 12 人いるので、各々得意分野に分散して、各団体等と意見交換しながら、さらに細かな課題を協議してはどうかと思っている。どんな団体と意見交換するかについては、皆さんと相談し決めていきたいと思う。皆さんからの意見はないか。

【荒川委員】

会長が言われたが、私に子育ての課題について問われても何年も離れているので難しいと思う。農業分野であれば、実際に行っているし、課題等については肌で感じるところもあるので、ある程度、各委員の得意とする分野に分けて話をしていく方がスムーズな協議ができるのではないかと思う。

【高橋（達）委員】

会長が言われた、いろんな分野に分けて整理していかないといけないんだろうなと思っている。それなりの専門的な知識のある人をグループ化して協議していくのがいいと思う。資料の課題の中で私が一番気になっているのは、「小中学校を維持存続していくための定住対策を検討」、「在住している若い人たちが基盤となり地域づくりを推進していく体制づくりを検討」、「子ども達が中郷区に住みたいと思ってもらえるような対策を検討」であり、テーマとしては、「未来を見据えた担い手、移住定住促進による少子化対策」である。

陸川（陽）委員が言われたが、若い人達がいきなり中郷区へ引っ越してくるのは難しいと思うが、その準備として若い人達が定住できる住環境の整備なんかも考えていかないといけないと思う。また、その中で教育環境の特化ということで、中郷区の大自然を生かした各種イベントを実施することにより、他の地区との差別化も図り、そんな地域で子どもが育ってほしいと思われるような地域にしていくことも必要になってくるし、そういう状況についてもどんどん情報として発信していくべきだと思っている。

【竹内（靖）会長】

地域協議会で地域団体の皆さんと意見交換をする場合は全体で行うとなかなか地域団体の人も意見が出しにくいと思うので、カテゴリーを 3 から 4 に絞って、地域協議会委員がそこに分散して、自由に意見を言えるような環境づくりもしながら意見を集

約し、課題を見つけるという方法で行ってはどうかと思う。冒頭にも話したが、短期的に解決できる議題ではないので、これからじっくりと検討していく中で、カテゴリーや意見交換を行う地域団体は今後、皆さんと決めさせていただきたいと思う。個人的には、農業、子ども関係、福祉などそういうところにこれからの担い手にもっと力を入れていくことが必要と思っている。資料1の事務局案の中に、商業とか工業があるが、そこにはなかなか踏み込めない。非常に難しい部分かなと思っていて、商工関係となれば商工会の青年部や女子部との意見交換となるが企業的な話し合いにも発展すると思うので、それはまた別の機会でと考える。

【岡田委員】

カテゴリーなら3つくらいでいいかと思う。農業、地域団体、あと観光を入れてみたりして大まかに分ければいいのではないかな。また、子ども等については、PTAや子供会なども含めて対応すればいいかと思う。担い手対策となると本当に漠然と広がるので、カテゴリー分けして分科会で行ったほうがやり易いと思う。

【村越委員】

担い手対策は、本当に広い課題であって難しいと思う。子どもが転出しないとか、移住者を増やすというのもなかなか難しく大変な課題だと思う。その中で、どのようにしていくかとなると、親子関係ではないかと思っている。子どもは親や大人を見て育つので、その家族が中郷のことが好きで住んでいて楽しいことが子どもに伝わらないことには、結局、子どもも転出することになるのではないかな。地域の人が楽しめて住んでいける地域になるには何をしたらいいか、その辺の意見を吸い上げて、何が一番大切かということ把握するのが大事かなと思う。

【竹内（靖）会長】

基本的には皆さんから同意を得たと思っている。宮川委員の資料については、次回に説明してもらうこととして、今回の新たな自主的審議事項の第一歩としては、担い手対策を踏まえた中で、カテゴリーを決めて、地域の比較的若い団体の運営者と意見交換をしていく。カテゴリーの方だけ整理させようかと、一つ目は「農業」、二つ目は「子ども関係」ということでいいか。

【村越委員】

子ども関係で意見を聞けるとしたら、PTAであったり地域で活動しているスポーツ関係のお父さん、お母さんになるのかなと思う。保育園の父兄とか商工会青年部な

どの子育て世代も対象になる。

【竹内（靖）会長】

あとは、地域団体とか観光か。

【岡田委員】

観光協会に商工会も入れてもいいのではないか。

【竹内（靖）会長】

若い世代との意見交換会の中に商工会という組織が入ることによって忌憚のない意見が出せるかが不明であるため検討が必要ではないか。

【高橋（達）委員】

最近、江端町内会に新たな鳥料理の店が出来たが、若い世代が起業している。もし、そういう人が他にもいるのであれば、例えば、三ツ屋町内会の空き店舗を活用して受け入れたり、商工会としてどこまでサポートできるかなどにも繋がるため商工会も大事なのかなと思った。商工会を通して人材募集のチラシ等の発行など、そんな行動に繋がって少しでも地元で働いてくれる人材を探していくような取組をするうえでも商工会は必要であると考えます。

【竹内（靖）会長】

今までの意見交換会では団体の上役を中心に行っていたが、今後は実際に実践している方をピックアップして行うことにより、実践的で新しい斬新な意見を得られるのではないかと。そのためには、我々も頭をリニューアルして向かっていく必要があると思う。今後の協議方法については、固定観念に縛られない状態で、時間をかけて協議していく、カテゴリーについてもその様な形で決めていくこととする。部会方法で進めていくこととなるが、委員分けについては私に一任させていただき、その部会の中で意見交換を行うメンバーを決めて、春くらいに意見交換会をするような行程でよろしいか。

・・・全員承諾・・・

分野ごとに話を進めていく中で、地域協議会としてどこに終着点をもっていくかを考えた時に、以前から考えていたことだが、防衛省の調整交付金の使途について検討していくことである。年間約 4,500 万円近い調整交付金がある中で、その在り方や使途については全然勉強していなく、こういうことを若い担い手に伝えていく必要がある

と考えている。調整交付金はおそらく半永久的に中郷区が使える財源だと思うので、課題解決を具現化する際に利用できるかもしれないということを頭の中に置いて、中郷区の自主的審議事項を進めて行ったらどうかと思う。

【高橋（達）委員】

我々も少し調整交付金の使途等を勉強しなければならない。今までは芋川の改修に使われており、その後コミプラの補修などに充当されているが、使途については、行政と一体となってこんなものに充ててはどうかなど、地域の特性を生かした活用方法に繋げていくべきだと思っている。中郷区に演習場があるからには逃げられない問題なので、それをうまく地域の活性化に繋げていけるような方策を検討していかなければいけないと感じている。

【竹内（靖）会長】

調整交付金は今までは、芋川改修や消雪パイプ更新など形が見えるハード事業に使われているが、今後も、中郷区にとってどのように使われているかある程度姿が見えるということも中郷区に住んでいる方々にとってはとても大事なことかなと思う。我々地域協議会も、勝馬基金の件に区切りを付けた段階なので、これから自主的審議事項を交えながら、調整交付金の勉強もしながら、どこかのタイミングで若い人を交えて調整交付金の使途について議論できれば、一番理に適うのかなと思っている。この件については、皆さんから承知していただいたということで進めていきたいと思っており、行政からもそういう観点で教えていただき、いろんな形でご指導をいただきたい。

【高橋（達）委員】

その他の件だが、何年か前に勝馬基金を活用して整備した「ひばり荘」の件だが、誰でも、いつでも使えるような施設になってほしいと思っている。民間企業の運営で行われているが、もう少し使いやすい形が取ればと思う。カテゴリーごとの検討の際には取り上げて検討してほしい。

【竹内（靖）会長】

公費を投じていろんな物議を醸しながらの営業開始となったが、地域にとってはすごくいいスタートだったと思っている。ただ、コロナの影響やいろいろな事情で運営状態が我々の希望とは意に沿わない部分があり、いろんな形で周りから聞いている。

民間企業なのでどこまで接点をもてるか、また、行政からの指導等はできるのか。

【名倉所長】

施設を利用する人が増えないことにはどうにもならない。

【高橋（達）委員】

地域住民と定期的に話し合いを行うこととなっているが、それすら実施していない状況にある。まず、その辺からはじめてはどうか。どうしたら活性化に繋がっていくかの話し合いを実施したい。

【竹内（靖）会長】

企業努力はある程度してもらわないといけない。地域の中に元気が出てくればという気持ちは分かるが、公金を投じてオープンした経緯もあり、ある程度、呼び込む努力は会社として絶対してもらわないといけないものでもある。オープン当初から利用者から利用しづらいという意見が多く、ロコミで拡がった部分もあり、つまずいたのかなと思うのでこのタイミングで話が出来るといい場を持ちたいと思っている。

【高橋（京）副会長】

カテゴリーごとに分かれて、それぞれ関係者の意見を聞くのはいいと思う。しかし、スケジュール的に春から意見交換に移る感じかと思うが、この漠然とした担い手対策について分科会を行ったとしても意見を吸い上げられるかというところが問題だと思う。事前準備がそれまでに間に合わなく、意見の收拾がつかなく着地点がボケてしまうような気がする。そうならないように、事前準備をきちんとして意思統一を図り、ある程度、結論に至るまでの準備を地域協議会として行ったほうがいいのではないかな。

【竹内（靖）会長】

もう少し準備期間をおいて、4月、5月と言わず、夏頃になってもある程度の下準備をしっかりとした方がいいとの高橋（京）副会長の意見である。

確かに、そのほうが間違いないかなと思う。意見交換をいきなり行っても收拾がつかないということもあるかもしれないので、カテゴリーごとに我々地域協議会委員がどのような話し合いにするかなどを考えておく必要があると思う。そんなことから少し時間をかけて進めていくようなやり方でよろしいか。ただ、私も会議の際はそうであるが、開催者側ががちがちに終着点を決めてしまうと、出てきた意見を受け入れられなく、決めた終着点に誘導してしまうことにも成り兼ねないので、そこだけは気を付けていただき、会議や意見交換会の時は頭をクリアにして向かってもらいたい。高橋（京）副会長より、いい意見をいただいた。少し時間をかけて、準備をして意見交換

ができる体制づくりをまず構築してから臨むということで、スケジュールは事務局と相談して作らせていただく。

特になければ、協議事項(1)の「新たな自主的審議事項」については、これで閉じることとする。

事務局他に何かあるか。

【内田班長】

令和3年度除雪計画書の配布について

【竹内(靖)会長】

説明のとおりである。私も商売柄、個人の屋根雪の除雪依頼を受けているが、年々高齢者世帯が増えていて、引き受け手の業者がいない状態がここ何年も続いている。

そのため町内会単位の補助金も大事だと思うが、高齢の母親と働き盛りの娘の2人暮らしの場合は援助が受けられないとか私道の延長が長く除雪に労力がかかるとか、そんなところの何か支援も必要かなと感じている。委員の皆さんから、何かあるか。

他に発言がないため、これをもって、本日の会議を終了する。

次回の会議は、1月26日(水) 午後6時00分から、「中郷コミュニティプラザ」で行うこととする。

(終了 午後7時20分)

9 問合せ先

中郷区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 0255-74-2411 (内線 165)

E-mail : nakago-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。